

農大だより

発行日：令和3年11月1日
 発行：岐阜県農業大学校
 可児市坂戸938
 Tel：0574-62-1226
 Fax：0574-62-1227

◇目次◇

- 学習環境を充実
 - ・イチゴ温室のスマート農業化
- 検討会や授業を「ハイブリッド方式」で
 - ・プロジェクト学習中間検討会
 - ・学生の講義
 - ・社会人研修
- 『オープンキャンパス』『緑の学園』を開催
- 乳牛の手術を実施
- スポーツ交流会



学習環境を充実化

イチゴ温室のスマート農業化

農業大学校では、促成イチゴを養液及び土耕で栽培しています。これまでも高設栽培システム「岐阜県方式」を導入していましたが、今年度、より高度な肥培管理、環境制御が可能となるよう施設整備を行いました。

これまでの給液制御システムを、ECコントローラーを利用した希釈タンク方式に変更し、イチゴの好適な給液制御をより精密に行うことが可能となりました。さらに過剰な給液を削減できるため、環境への負荷軽減にもつながることになります。

あわせて、ハウス内環境を自動制御できるようにしました。



〈二人一組でイチゴの生育調査をする学生〉

今までの給液システムは、給液系統が一系統だったため、学生が取り組むプロジェクト課題の設定にも制約がありました。今回の施設整備により二系統になりプロジェクト課題の設定の自由度が格段に向上しました。

ハウスでは9月7日から定植を行い、現在は1番花が咲き始めました。新たに整備されたハウスで、スマート農業に関するプロジェクトを実施していきます。

検討会や授業を「ハイブリッド方式」で

夏期休暇が終わり新学期が始まりましたが、岐阜県下においてコロナウイルス感染症対策の緊急事態措置が取られており、全学生が登校して、実習や講義を行うことができなくなってしまいました。そこで農大では、全学生に貸与したタブレットPCを活用し学習をすすめました。



【プロジェクト学習中間検討会】

農業大学校では、学生一人一人が課題を設定し、課題解決活動を行うプロジェクト学習を実施しています。

2学年生が、約1年間にわたり取り組んできたプロジェクト学習を取りまとめ発表する「プロジェクト学習中間検討会」を9月21・22日に開催しました。



＜発表する学生＞



＜審査の様子＞

当番等で在寮する学生を除きオンラインで発表することにし、各学生は、在宅学習中に学習成果をまとめ、タブレットPCを用いて自宅から発表を行いました。

質問やアドバイスを受け、今後は卒業論文の作成に向けてデータをまとめる作業に入ります。

【学生の講義】

講義のうち、座学については8月30日からオンライン授業を開始し、大部分の学生はタブレットPCを用いて自宅で受講しました。なお、当番で登校している学生については、教室で直接受講するという「ハイブリッド授業」方式で行いました。タブレットPCに慣れるまでは戸惑いながらも、ほとんどの学生はうまく活用できるようになりました。

【社会人研修】

農大では農業と福祉の橋渡しを行う人材の育成を目的として、福祉関係事業所の支援員等を対象に、「農福連携栽培技術基礎講座」を実施していますが、緊急事態措置期間においてはリモート講座を実施するとともに、動画配信サイトにおける配信を行いました。



＜ハイブリッド授業の様子＞



＜タブレットの画面＞



＜リモート講座の配信＞

『オープンキャンパス』『緑の学園』を開催

【オープンキャンパス】

7月25～27日と8月19～21日の6日間、農業大学校への入学希望者とその保護者を対象に、本校への理解を深めてもらうことを目的にオープンキャンパスを開催しました。「1日体験入学」には、県内外から33名の入学希望者と12名の保護者の参加がありました。

午前中に学校紹介、校内を見学し、午後からは「野菜」「果樹」「畜産」の中から希望のコースを一つ選択し、実習を体験しました。

参加者からは、「ひとつの野菜を育てるのにも、こんなにも大変なんだとわかった」「全寮制なので、栽培作物や牛と身近に寄り添って活動できるのは良いと思う」などの感想が聞かれました。



＜学生代表から自治会活動の説明＞



＜体験実習：子牛の授乳＞



＜体験実習：梨の選果＞

【緑の学園】

緊急事態措置により、9月の開催から延期していた『緑の学園』を10月30日に開催しました。急遽の日程変更にもかかわらず、県下六つの農業関係高校から、2年生20名の参加がありました。

「若手農業者と語る会」では、農大卒業生の寺下光さん（イチゴ）、西尾優子さん（酪農）、国際園芸アカデミー卒業生の國井理佐さん（花き）から農業を始めたきっかけなどについて語っていただいた後、三つの座談会に分かれて意見交換が行われました。

参加した生徒たちは、「農業について聞きたいことが、たくさん聞いて良かった」「楽しく、とてもよい経験になった」「とても充実した時間だった」などの感想が聞かれました。



＜座談会で体験談を語る寺下さん＞



＜体験実習：トマト整枝作業とパプリカ調整作業＞



乳牛の手術を実施

当番の学生が助手を務め、職員（獣医師）が執刀して、乳牛「第四胃変位」の手術を行いました。第四胃を正常な位置に整復するための外科手術です。

在宅学習中の9月下旬に行ったため、全学生が現場で執刀の様子を見ることはできませんでしたが、助手をした学生達は、牛の体内に手を入れて内蔵の確認も行うことができ、大変良い経験をする事ができました。



＜職員の説明を熱心に聞く学生＞

スポーツ交流会(バレーボール)

6月29日、人材育成の時間を活用してスポーツ交流会を開催しました。今回は、学生自治会の役員が中心となり、企画からチーム分け、当日の運営などすべてを行いました。

例年は同時期に、東海近畿地区農業大学校9校の学生が一堂に会し、スポーツ競技を通じた交流会である「東海近畿地区農業大学校スポーツ大会」が開催されますが、昨年から2年間は中止となっていたため、校内でのスポーツ交流会を企画しました。教職員チームも参戦しましたが、学生チームに惜敗でした。



＜白熱した試合の様子＞

校長のひとこと ～コロナ禍の中で～

新型コロナウイルスの感染症対策が求められる中、農大においては、マスク着用や3密回避等の基本的対策を徹底しつつ、「緊急事態措置」や「まん延防止措置」等の期間には、イベントの中止、寮滞在や外出の規制、アルバイトの禁止などの対策も行い、学生には不自由な思いをさせていると思います。しかし、そんな中でも、校内実習やプロジェクト活動、資格試験の取得、そして寮生活をおくる中で、1学年生は、初々しさや幼さが消え、冴太さが芽を出し、2学年生は、就農・就職への準備を進め、農家派遣研修を行う中で一段とたくましさを増し、「学生が着実に成長している」と実感しているところです。

今後も、皆様方のご協力を得つつ、学生が自立し、自分の道を歩んでいけるようサポートしてまいります。

編集後記

8月の夏休み明けから緊急事態措置が取られ、そのまま2学年生は約1か月間の農家派遣学習に入りました。そのため、全員の学生が揃うことがないまま11月に入りました。

みんなが元気な姿で集まれる日が待ち遠しいです。